

夢追い人

株式会社Eハウス 代表取締役会長 江藤義行さん

今回は、10月に本格始動した、株式会社Eハウス 代表取締役会長の江藤義行さんにお話を伺ってみました。
Eハウスは、健康で快適なくらしにこだわり、見えない部分にも細かな配慮が施された、超環境住宅。従来の住宅にはなかった、断熱気密システム、Eキューブ工法、二十四時間計画換気システムなどが大きな特色になっている。



諸富北小学校で講義する江藤さん(左は代表取締役社長の弥永さん)

江藤さんの環境に対する意識は徹底している。まず会社には焼却炉がない。ダイオキシンなどの汚染物質を出さないだけでなく、リサイクルを促進するためだ。コピー紙などのすべての事務用紙は、ダイオキシンを出さないため、感光処理されていない。また、使用後は5種類くらいに分別し、再利用に回す。そして車についてであるが、会長以下すべての従業員は、アイドリングストップ運動に参加している。
こうしたことから、近隣の小中学校には、環境教育のためしばしば講師として招かれている。
ところで、Eハウスのコンセプトはどのように芽生えたのだろうか？
「そうですね、欧米を数多く訪問するうちに、日本での取り組みがどれほど遅れているかを痛感するようにな



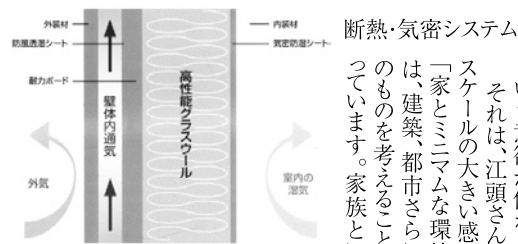
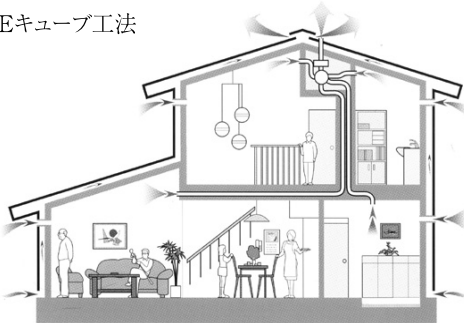
なりました。日本の住宅がホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、塩化ビニール壁紙など有害物質にまみれていることに気づくようになりました。こうしたものから、シックハウス症候群や化学物質過敏症などの、現代病が生じています。家とは、本来人を守り癒してくれるシェルターであつたはずなんです。見た目の豪華さを競うことばかり求めてきたため、家本来の役割が切り捨てられてきたと思います。」
Eハウスの特色の一つは、気密性と通風性を併せ持つこと。これは「見矛盾しているように思われるが、どうということだろうか？」
「ポットやクローゼットに穴があいているとその性能を発揮できませんね。同じように、住まいの温熱環境や空気環境をコントロールするためにはまず気密性能がしっかりしている必要があります。従来の日本家屋で10cm²/m²、メーカーハウスで4cm²/m²程度ですが、Eハウスでは0.7cm²/m²以下に抑えています。」
ではその上で換気を図るわけですね。
「その通りです。Eハウスでは、排

気型セントラル換気システムを採用し、二十四時間計画換気ができるように施されています。家具やカーペットから生ずる有害な化学物質やほこりなどによるカビ・ダニによる空気汚染。これらはアトピー性皮膚炎や気管支喘息の原因となる場合があります。室内の空気を常に清潔に保つためには単に窓を開け閉めするだけでなく、計画的に汚れた空気や湿気を排出する必要があります。」
その一方で優れた断熱性を持っているようですね。
「はい、Eキューブ工法の採用により標準仕様Q値1.5cal/m²h℃の優れた断熱性能を実現しています。エネルギーロスの少ないやわらかな温熱環境を楽します。」

「建材や家具の接着剤、塗料にはホルムアルデヒドやトルエンなどのVOC(揮発性有機化合物)が含まれており、これらの化学物質によって目やのどの痛み、めまい、頭痛、吐き気などの症状を起すことがあります。Eハウスの発ガン性も心配されています。」

話を聞いてみると、Eハウスで実現しようとする健康で快適な暮らしは、確かに表面的に取り繕うものではない。次世代の家のスタンダードを目指した、本格的なものにしたい、という意欲が伝わってくる。

Eキューブ工法



それは、江藤さんの環境に対するスケールの大きい感覚にあるようだ。「家とミニマムな環境を考えると、建築、都市さらには地球環境そのものを考えることと密接につながっています。家族という小さな生命体ですむ環境である家を少しでも良くすることは、すべての生命が住む地球環境を良くすることにほかならないと思うのです。」